《2006年9月例会報告》

【日 時】2006年9月28日 (木) 19:00~21:00 (→その後「ルン」~1:30)

【会 場】筑波大学附属高校3F会議室

【テーマ】シンガポールで感じたこと-小さな国の大きな挑戦

【報告者】中塚義実(筑波大学附属高校)

【参加者(会員)】木口理恵(学習院女子) 田中理恵(アマチュアカメラマン) 名方幸彦(文京教育トラスト) 中塚義実(筑波大学附属高校) 宮崎雄司(サッカーマニア編集長)

【参加者(未会員)】★舟橋友子(サッカーファン) 小林達彦(フリーランス/元ニッポン放送) ★ 虎谷淳一(㈱JTB/筑波大サッカー部出身) ★長倉亮一(芝生応援団グラス・ルーター) ★高田 敏志(少年サッカーコーチ/町田高ヶ坂SC) 庄司悟(ドイツ)

★は初参加のため、参加費は免除

【報告書作成者】中塚義実(現在作成中)

注)参加者は所属や肩書を離れた個人の責任でこの会に参加しています。括弧内の肩書きはあくまで もコミュニケーションを促進するため便宜的に書き記したものであり、参加者の立場を規定するも のではありません。

シンガポールで感じたこと

-小さな国の大きな挑戦-

中塚義実(筑波大学附属高校)

はじめに

7月17日~28日、シンガポールの Hwa Chong Institution (HCI。もとは華人が創った、シンガポールのエリート学校)の主催で、アジア各国の優秀な高校生が集う「アジア青少年リーダーサミット Asian Young Leaders Summit (AYLS)」が開催された。初開催となるこのサミットに参加したのは、サウジアラビア、インド、マレーシア、中国、日本および地元シンガポールの 6 カ国 19 校から選ばれた生徒80名。日本からは3校14名が参加し、本校からは2年生の5名が参加、担任学年ということで、中塚が全期間滞在することになった。各校からの付添教員には、生徒とは別のプログラムが用意され、期間中は高校生の活動を側面から観察・サポートしつつ、シンガポールを十分堪能することができた。サッカーに関係しては、次のような活動を通して、十分堪能することができた。

- 1) FIFAワールドカップをめぐる話題で各国の教師・生徒と盛り上がる
- ・「FIFAワールドカップ出場国」としての日本の活躍(?) は、各国の先生方や参加した生徒とのコミュニケーションの材料として有効
- ・とりわけ「ドイツへ行ってきた」話は、各国の先生方も興味津々(フランクフルトのPVの写真など)
- 2) アルビレックス新潟・シンガポール (以下「アルビS」) のスタッフとの会食 何度か設けられた会食はシンガポール事情を知る上で貴重。7月24日のSリーグ観戦につながる。 7月18日 … 日本人教師6名とアルビSのアシスタントマネージャー (AM)

7月22日 … 日本人教師5名とアルビSのコーチ、GKコーチ、AM

7月25日 ··· 日本人教師2名とアルビSの監督、コーチ、GKコーチ、AM

3) Sリーグ観戦 (多国籍教師4名)

7月24日(月)19:30からのアルビSvsゴンバック・ユナイテッドのゲームを、ジュロン・イーストスタジアム(アルビSのホーム)にて観戦。中塚の他、同僚の数学教師(日本人)と、インドの数学教師、サウジアラビアのイスラム教教師(現副校長)が参加。大いに盛り上がる。

4) ジョホールバル (JB) 観光

7月23日(日)、マレー鉄道に乗って隣国マレーシアのJBへ出かける。1998フランス大会予選プレーオフ会場「ラーキンスタジアム」を目指した小旅行は、タクシー運転手との交流などで非常に充実。

5) 高校生らと草サッカー

参加した各国の生徒(男子生徒)は皆サッカー好き。空き時間はあまりなかったが、それでも見つけた空き時間に、HCIのフットサルコートや芝のグラウンドで、またイーストコーストパークの芝生の原っぱで、草サッカーを楽しんだ。アラビア人高校生をドリブルで抜き去った後に彼の肘が出てきてまぶたの上を切られ、25日以降は絆創膏をはって過ごすことになった(おかげで大統領ともこのネタで会話がはずむ)。

6) HCIの体育の授業でサッカーを指導

7月25日(火)に、ジュニアカレッジ2年生の体育の授業でサッカーを指導する機会を得た。

月例会では、まずはじめにシンガポールとはどのような国なのか、そしてそこにおける「アジア青少年リーダーサミット」とはどのような企画だったのかを概観した。そのことが、人材育成の面におけるシンガポールの"大きな挑戦"を知ることにつながるからである。後半は、シンガポールのサッカー事情について、その歴史と現状を概観しながら、シンガポール・サッカー協会とSリーグの意欲的な取り組みを把握した。さらに、Sリーグの外国人チームであるアルビSの試みについては、現地から送られてきたビデオ映像をみながら理解した。報告者の体験は、多くの写真で紹介された。"小さな国の大きな挑戦"からは得るところが多く、ディスカッションのテーマも多岐に及んだ。

月例会の資料と当日の意見交換の内容を要約して報告する(写真はHP掲載時に公開する)。

I. シンガポールってどんな国?

1. 地理と歴史

1) 伝説の時代

- ・マジャパイト王国 (13~16C) に服属する国々の中に、シンガポールの古名「トゥマセ」の記述あり「漁業」と「海賊行為」と「貿易」で成り立っていた。
- ・14世紀末、マラッカ王国の建設者パラメスワラが、マジャパイトの攻撃から逃れ、5年間過ごした「獅子の町」シンガプーラ
- ・その後は「見捨てられた小さな漁村」あるいは「悪名高き海賊のすみか」として、約400年間、歴史 の舞台に登場することはなかった

2) 植民地シンガポールの建設

- ①ポルトガル 1511年 ポルトガルの艦隊がマラッカに到着。マラッカ王国滅亡 ポルトガルは香料貿易を中心とする東洋貿易を独占
- ②オランダ 1602年 東インド会社設立

1619年 ジャカルタ占領、バタヴィアと名づけ総督府を置く

1641年 ポルトガルからマラッカを奪い、東洋貿易を独占

※1648年 オランダ独立(北部7州がネーデルラント連邦共和国の独立を宣言。スペインからの独立)

③イギリス 1600年 東インド会社創設

カルカッタ (インド) を拠点とするが、至るところでオランダの妨害に

1682年 西スマトラのベンクーレンに商館設立

※18~19世紀に飲茶の習慣から中国貿易が始まる(中国・インド・イギリスの三角貿易) これによりマラッカ海峡の重要性高まる

3) ラッフルズの上陸と英国領としての発展

- ・1819年1月29日 英国軍人ラッフルズがシンガポール島に上陸 上陸当時、「120人のマレー人と30人の中国人が住んでいた」(ラッフルズの記録による)
 - → 1824年には人口1万683人。1836年には中国人がマレー人を上回る

ラッフルズによる新しい都市の建設/英国法に基づく法令整備/エスニック・グループ別の居住区

- ・1824年 シンガポールをすべて東インド会社に委譲 → のちにイギリス直轄 (1858)
- · 1824年 英蘭条約

インド・マレー半島・シンガポールはイギリス領、東インド諸島はオランダ領として分割される

4) 英国領としての発展(不干渉政策の放棄と植民地の形成)

- ・1832年 シンガポールが海峡植民地(ペナン、マラッカ、シンガポール)の首都となる
- ・1874年 パンコール条約 (駐在官制度の導入。英国の積極的な介入開始)
 - → 爆発的な人口増大。中国人労働者「苦力(クーリー)」や日本人娼婦「からゆきさん」が登場

5) 日本の侵略・統治時代

- ・1941年12月8日 マレー半島コタバルへ日本軍上陸(真珠湾攻撃よりも先に開戦)
- ・1942年2月15日 シンガポール陥落 (イギリス軍の敗退)

「昭南島」として3年6ヶ月の軍政

中国に肩入れしたと判断されたシンガポール在住の中国系移民(華人)に対して、日本軍の厳しい「検証」が行なわれる

6)英国による再統治と独立への道

- ・1945年9月5日 イギリスの軍政下に
- ・1946年10月 英国が「マラヤ連合」構想発表

4連合州、5非連合州、マラッカ、ペナンを、全て一つの政治組織「マラヤ連合」にまとめ、各州のスルタンの権限を奪い、総督の下で中央集権的直轄統治を実施。シンガポールは「マラヤ連合」から切り離し、英国の直轄植民地にするという構想

 \downarrow

・1948年2月1日 「マラヤ連邦」誕生

マレー半島で、「マラヤ連合」構想への反対運動が起き、「マラヤ連邦」成立

華人の多い(78%)シンガポールは「マラヤ連邦」には加わらず、直轄植民地のまま残された

理由1)戦略的に重要な海軍基地シンガポールを、英国は手放したくなかった

理由2)マラヤのマレー人指導者たちが、シンガポール受け入れを渋った

- 1955年 部分自治開始(デビッド・マーシャル首相)
- ・1959年 完全自治に移行(リー・クワンユー首相)
- ・1961年 マラヤ連邦、「マレーシア連邦案」を提唱 マラヤ、シンガポール、イギリス領ボルネオを統合する考え

 \downarrow

・1963年 シンガポール、マレーシア連邦の一員に しかし、シンガポールとマレーシア連邦との経済的、政治的な差はあまりにも大きく、ことにマレー

しかし、シンガホールとマレーシア連邦との経済的、政治的な差はあまりにも入さく、ことにマレー 人優先政策をとるマレーシア政府と、各エスニック・グループの平等政策をとるシンガポール政府と の対立は克服できなかった。

・1965年8月9日 シンガポール独立

(参考『もっと知りたいシンガポール第2版』、弘文堂、1994)

2. 現在の状況

- 1) 政治 … 一党支配の政治体制
- ・大統領を国家元首とする共和制。現大統領は、Sellapan RAMANATHAN (ナザン)
- ・PAP (人民行動党) の一党支配

2001年の総選挙では8、4議席中82議席をPAPが占める。強い政治的リーダーシップが特徴。

初代首相 … リー・クワンユー (1959~)

2代目 … ゴー・チョクトン (1990~)

3代目 … リー・シェンロン (2004~) (リー・クワンユーの息子)

2) 経済 … 独立後30年間は年平均10%の急成長!

- ・1959~1965 輸入代替工業化戦略 = マレーシア市場への進出を視野に入れる
- ・1966~1978 輸出志向工業化戦略 = 外資誘致による工業化

マレーシア市場の喪失、独立した近隣諸国の(シンガポールを通さない)直接貿易の比重増大、 英国駐留軍の撤退発表(1967)など数々の逆風にありながら、政府がかなり強引に「外国企業が 安心して適正な利益を追求できる環境」を作り上げた

- ・1979~1984 産業構造高度化戦略 = 知識・技能集約型産業を中心に
- ・1985~ 世代交代と先進国化政策 = 金融・ビジネスサービス部門の拡大

3) 民族・宗教 … 多民族・多宗教が共存

- ・85%がHDB (住宅開発庁Housing Department Board) 集合住宅に住む エスニックグループごとの居住区から、民族混合のHDB
 - → 古い社会の解体と新しいコミュニティの誕生

4) 教育 … 言語教育と複線型教育制度

①二言語教育 … すべての学校で第一言語は英語。第二言語として母語(各民族の母国語)も教える ②午前・午後の2部制

7:30~13:00と13:00~18:30のグループに分かれる。通常1,3,5年生が午後で2,4,6年生が午前

③学制は6·4(or5)・2、または6·3·3制

小学校は6年制。その先は試験の結果で変わってくる(複線型教育システム)

- ④小学校4年生で最初の試験
- ■「ストリーミング」と呼ばれる全国統一試験。結果によって、小学校5~6年は3コースに分かれる
 - ・EM1 (英語・民族母語ともに第一言語レベル) … 約1割
 - ・EM2 (英語を第一言語レベル、民族母語を第二言語レベル) … 約8割
 - ・EM3 (英語を第一言語レベル、民族母語は会話能力レベル) … 約1割 (セカンダリースクールへの進学も可能)

※2005年度より、小学校4年生での「ストリーミング」は各学校に委ねられることになった(ようだ) ⑤試験、試験と続く

- ■「改良版初等教育卒業試験 (PSLE)」。結果によってセカンダリースクールでのコース分けが決まる
 - ・特別 (Special) コース (4年) … 上位約10%
 - ・急行 (Express) コース (4年) ... 上位約50%
 - ・普通 (Normal) コース (4~5年) … 残りの生徒

※EM3修了者は普通コースのみ

普通 (学術): Academic教科を専門…約20~25% 普通 (技術): Technical教科を専門…約20~15%

- ■「普通教育修了証試験(GCE)」
 - ・標準 (Normal) レベル (普通コースのみが受験する)
 - ・普通(Ordinary)レベル(特別コース、急行コースが受験する)

 \downarrow 中等後教育 = ジュニアカレッジ(2年)orポリテクニック(2~3年)等 \downarrow

- ・上級 (Advanced) レベル → 大学教育
- ⑥能力別は常識/⑦充実した学生食堂(キャンティーン)/⑧情操教育やスポーツも (参考『地球の歩き方・シンガポール』『もっと知りたいシンガポール第2版』他)

II. AYLS (Asian Young Leaders Summit) とは

http://ayls.hci.edu.sg/schools.html

- 1. 主催校HCI (Hwa Chong Institution) について<http://www.hwachong.edu.sg/>
- ・Raffles Institution(1821創設)と並ぶ、シンガポールの、別格的エリート校
- ・華人が創設(1919)したThe Chinese High Schoolと、シンガポール初の政府助成学校として創られた (1974) Hwa Chong Junior Collegeが合併して2005年に創設した
- ・現在、以下の4つの部門を持っている
- 1) セカンダリースクール(4年制) … 日本でいう中学1年生~高校1年生まで
- 2) ジュニアカレッジ(2年制) … 日本でいう高校2年生~3年生
- 3) インターナショナルスクール(6年制) … 初年度生(2005)は12カ国90名
- 4) ボーディングスクール(寄宿学校) … HCIの在校生だけでなく、卒業生や他校生も受け入れ

2. 各国からの参加校(19 校 102 名)について

- ・サウジアラビア(2校10名) … 王立学校など
- ・インド(4校16名) … 私立のモダンスクールなど
- マレーシア(2校8名) … マレーカレッジなど
- ・中国(4校16名) …周恩来の卒業した天津南開学校など
- ·日本(3校14名) ··· 筑波大附高、麻布高校、下関西高校
- ・シンガポール(4校16名) … ラッフルズ・インスティチューションなど
- ※いずれも各国を代表するエリート校。HCIの意図と意欲が参加校からもよくわかる

3. AYLSのねらいと内容

1) ねらい

・国際的な視野を持った青少年を育成する

- ・アジア諸国の青少年がお互いの交流を通して相手の国を理解する
- ・アジアのヤングリーダーに、国境を越えた強いネットワークをつくる
- ・アジアの将来の指導者を育成する

2) 生徒用プログラム … テーマに沿ったプログラムが用意されていた

- 7月16日(日) ようこそ! … 各国からシンガポールに集結
- 7月17日(月) 開会式 … シンガポール教育大臣を招いての歓迎会・HCI校内ツアー/市内観光
- 7月18日(火) アクティビティー(仲間づくり) … ウビン・アドベンチャーセンターにてASE (Action Socialization Experience) = アスレチック・プログラム
- 7月19日(水) 経済発展 … ジュロン島(化学工業専用人工島)・シンガポール港訪問
- 7月20日(木) 環境 … スンゲイブロウ自然公園・シンガポール動物園・水の再生工場(ニューウォータープラント訪問) / 「シンガポール・ユースフェスティバル2006」の合唱コンサート鑑賞
- 7月21日(金) 教育 … 南洋工科大学・国立シンガポール大学訪問/金融省常任秘書官を囲む討論会
- 7月22日(土) 休日 … セントーサ島観光
- 7月23日(日) 休日 … 市内観光
- 7月24日(月) メディア … シンガポール新聞社訪問/カルチャーナイトの準備
- 7月25日(火) 金融 … シンガポール政府投資社会法人・世界銀行シンガポール支社訪問/イーストコーストパーク観光
- 7月26日(水) 研究と社会奉仕 … A*STAR (理科工学政府機関) 訪問/学童保育ボランティア活動
- 7月27日(木) 政治と公安 … 政府機関の方を囲んで討論会/シンガポール警察・シンガポール大統領官邸訪問
- 7月28日(金) 文化交流(お別れパーティ) … カルチャーナイト
- 7月29日(土) お別れ

3) 教師用プログラム … 生徒と一緒の活動もあったが、教師用特別プログラムもあった

- 7月18日(火) 大学やポリテクニック(科学技術専門学校)などの訪問
- 7月19日(水) 公立中学校と NIE (シンガポール教育省) 訪問
- 7月20日(木) シンガポール日本人会訪問(これは日本人教師のみ)
- 7月24日(金) 国立図書館訪問
- 7月25日(土) ゲストレッスン(HCIの授業参観またはゲストティーチャートして授業を行なう)
- 7月26日(日) HCIのスタッフとのディナー

4. AYLSに参加して

1) 参加した生徒(教師も)にとっては、すばらしい経験になった

来年度以降も是非参加させたい。この成果をいかに伝えていくかが課題

2) 自分たちの教育計画を見直すよい機会になった

国際的な視野を持った生徒の育成 … 国内のチャンピオンを目指していてもだめ ボトムアップとプルアップ … 落ちこぼれ対策だけでなく、できる生徒の引き上げを

3)「交流」(国際交流含む)を前提とした準備が必要

相手校と交換できるようなペナント・記念品 … 日本以外の参加校はいろいろ用意していた せめて英文のパンフレットは必要



広大な敷地に延々と広がるHCIの校舎



充実したスポーツ施設。公認プールに併設された レストランは、学外にも開放されている



ボーディングスクール。期間中ここに宿泊した



公認陸上競技場とサッカー場。もちろん芝生。この日はセカンダリースクールとジュニアカレッジのサッカーチームの試合があった。



ボーデングスクールの食堂は、20:00~22:00まで自習室となる。よく学ぶシンガポールの生徒



グランド脇のスタンドでクラスメートが応援している。これが制服



壁に囲まれたフットサルコート。休み時間や放課 後に集まってやっている



AYLS参加者の集合写真 (大統領官邸にて)。前列 中央のネクタイ姿がナザン大統領。



放課後の活動として「軍事教練」もあった



民族衣装を着た各国の引率教師。左から3人目の 私は「日本のサラリーマンスタイル」



HCIでサッカーの授業をさせてもらった記念に。



最終日のカルチャーナイトでは、各国の文化を紹介するブースが設けられた。日本のブース前にて。

Ⅲ. シンガポールのサッカー事情

■シンガポールと日本のサッカー

シンガポールのサッカーと言ってもあまりピンと来ないが、次の点は押さえておきたい。

- 1) U-16日本代表、シンガポールにて12年ぶりのアジア制覇! … ごく最近の話。
- 2) Sリーグに、アルビレックス新潟・シンガポールが参戦! … これについては後述
- 3) すぐ隣のジョホール・バルにて、1998年フランス大会出場を決める!

シンガポールから「コーズウェイ」を渡るとマレーシアのジョホールバル。ここは日本がはじめてワールドカップ本大会出場を決めた記念すべき土地。もっとも古い世代の方にジョホールバルと言うと、違う答えが返ってくる。

4) 日本代表との対戦成績は?

| 年 | 月日 | 結果 | 対戦相手 | 開催地 | 分類 | 公式大会 | 監督 |
|------|--------|--------------|-------------|----------|----|--------|-------|
| 1959 | 01.10. | O4-3 | シンガポール | シンガポール | Α | | 竹腰重丸 |
| | 01.11. | ●2-3 | シンガポール | シンガポール | Α | | 竹腰重丸 |
| | 09.03. | O4-1 | シンガポール | クアラルンプール | Α | | 竹腰重丸 |
| 1964 | 03.01. | O3-1 | 華巫連合 | シンガポール | С | | 長沼健 |
| | 03.03. | O2-1 | シンガポール(民連隊) | シンガポール | Α | | 長沼健 |
| 1965 | 03.25. | O4-1 | シンガポール | シンガポール | Α | | 長沼健 |
| 1966 | 12.16. | ○ 5−1 | シンガポール | バンコク | Α | アジア大会 | 長沼健 |
| | 12.19. | O2-0 | シンガポール | バンコク | Α | アジア大会 | 長沼健 |
| 1970 | 08.10. | O4-0 | シンガポール | クアラルンプール | Α | | 岡野俊一郎 |
| 1974 | 02.12. | O1-0 | シンガポール | シンガポール | Α | | 長沼健 |
| 1975 | 06.21. | O2-1 | シンガポール | 香港 | Α | アジア杯予選 | 長沼健 |
| 1978 | 07.23. | ●1-2 | シンガポール | クアラルンプール | Α | | 二宮寛 |
| 1979 | 07.13. | O3−1 | シンガポール | クアラルンプール | Α | | 下村幸男 |
| 1980 | 12.22. | O1-0 | シンガポール | 香港 | Α | W 杯予選 | 川淵三郎 |
| 1981 | 02.17. | O1-0 | シンガポール | シンガポール | Α | | 川淵三郎 |
| | 02.19. | △0-0 | シンガポール | シンガポール | Α | | 川淵三郎 |
| 1982 | 06.02. | O2-0 | シンガポール | 広島県営 | Α | | 森孝慈 |
| 1985 | 02.23. | O3−1 | シンガポール | シンガポール | Α | W 杯予選 | 森孝慈 |
| | 05.18. | ○5-0 | シンガポール | 国立 | Α | W 杯予選 | 森孝慈 |
| 1987 | 04.12. | O1-0 | シンガポール | 国立 | Α | 五輪予選 | 石井義信 |
| | 06.14. | O1-0 | シンガポール | シンガポール | Α | 五輪予選 | 石井義信 |
| 1997 | 03.12. | O4-0 | タイガース | シンガポール | С | | 加茂周 |
| 2000 | 02.13. | ○3-0 | シンガポール | マカオ | Α | アジア杯予選 | トルシエ |
| 2004 | 03.31. | O2-1 | シンガポール | シンガポール | Α | W 杯予選 | ジーコ |
| | 11.17. | O1-0 | シンガポール | 埼玉 | Α | W 杯予選 | ジーコ |

1. シンガポール・サッカーの歴史

シンガポールサッカー協会HP参照http://www.fas.org.sg/default.asp?V_DOC_ID=853

1) シンガポールにおけるサッカーの始まり

1889年 英国のエンジニアがTank Rod pitchでプレーした

1800年台最後の四半世紀には、英国陸軍や英国市民、地元クラブ定期戦が行なわれるようになった。

2) SAFA (the Singapore Amateur Football Association) 創設 (1892)

1892年 アジア最古のサッカー協会としてSAFA誕生

同 年 カップ戦 (the Association Challenge Cup) 開催、Royal Engineersが優勝 その後の優勝チームには、Lincolns、Royal Artillery (英国砲兵隊)、Fusiliers (フュージリア連隊)、Singapore Cricket Club、Harlequins (ひょうきん者) 等がある

1904年 シンガポール・フットボール・リーグ (SFL) 創設

初代王者は、The 1st Battalion Manchester Regiment (マンチェスター連隊第一大隊)

※これらはヨーロッパ人が優勢だったが、地元民も民族間のフレンドリーマッチを行なっていた

1894年 ジョホールとシンガポールの親善試合が行なわれた記録あり

1901~1913 セランゴル (マレーシア) とシンガポールの親善試合

1925 シンガポールの華人がリーグ制覇

1934 シンガポールのマレー人がリーグ制覇

※Sino-Malays … 華人とマレー人の各サッカー協会所属の優秀選手による即席チームがオーストラリアと戦い、4-2で勝ったという記録もある

3) マラヤカップ誕生とシンガポールサッカーの発展

1921年 HMS Malaya (マラヤ・英国陸海空軍) が着任

同 年 HMS Malaya Cup (後にMalaysian Cup) 創設

シンガポールがSelangor (マレーシア) を2-1で下して優勝 (1994年までに通算22回優勝) ※両チームには多くのヨーロッパ人が含まれていた

1925年 マラヤカップをシンガポールで開催

シンガポールはSelangorを2-1で破って優勝

※マレーシアカップの人気に劣らず、シンガポール国(?)内のサッカーも充実していた。

Government Services Leagueや、Business Houses Leagueの他、多くの地域カップやリーグあった。

4) 戦後サッカーの復興(1950年代)

※シンガポール・フットボール・リーグ

新興チームの台頭 (Darul Afiah / Tiger Standard / Pasir panjang Rovers / Royal Air Force等) ※ビジネスハウス・リーグ

大企業にとって魅力的なリーグ (Cold Storage / Guthrie Waugh / Singapore Airlines / Fraser and Neave / Malayan Breweries等)

1953年のシーズン末に、ビジネスハウスリーグ選抜がマレーシアの州代表やSino-Malaysを招いて Feith Cupを開催するようになった

1952年 SAFAはFASとなる

1961年 リーグが中止 (1975年に再開)

1954年 AFC誕生 … シンガポール、アフガニスタン、ビルマ、中国台北、香港、インド、インドネシア、日本、韓国、パキスタン、フィリピン、ベトナムによる

5) シンガポール独立と代表チームの活躍-The Lions of '66

1966年、バンコクのアジア大会で、独立したばかりのシンガポールが地元タイと南ベトナムを破りベスト4進出! (準決勝でビルマに、3位決定戦で日本に0-2で敗退)

6) The Malaysia Cup and the Kallang Roar

- ・1970年代に、マレーシアカップ熱が高まった。
- ・1977年にマレーシアカップは、1965年以来初めて、シンガポールの手に渡った。
- ・しかしマレーシアカップの人気は、八百長問題につながり、シンガポール国内のNFLも影響を受け、 人気は徐々に落ち込んで行った。
- ・1975年にNFLの改革。100あったリーグ所属チームを30チームに整理し、3 つのディビジョンに分けた

7) Out of the Cup-and into the S. League

- ・1994.12.17. マレーシアカップでライオンズ (シンガポール代表) が優勝
- ・1995.2. FASはマレーシアカップからの離脱を表明。75年間続いた関係終了
- ・すぐさまプロリーグ創設へ向けてのタスクフォースを結成。1996年開幕を目指す
- ・「シンガポール・プロフットボールリーグ」というCompanyで運営。8チームのリーグ戦 ※2004年からマレーシアでも「スーパーリーグ (MSL)」がはじまる

2. Sリーグのあゆみと意欲的な取り組み Sリーグ HP<http://www.sleague.com/index.asp> 1) あゆみ

- ・開幕に先立って、Sリーグオールスターとタイ代表の親善試合が行なわれた。55,000人のファンとゴーチョクトン首相が見守る中、1-1からPKでタイが勝利するが大いに盛り上がった。
- ・1996年は、タイガービールシリーズとパイオニアシリーズの 2 シーズン製。勝者同士がグランドファイナル。最初の試合は4月20日、グランドファイナルは11月9日。Geylang Unitedが2-1でSAFFCを下し初代チャンピオン。ゲイランは翌週、FA Cupも制し、2 冠達成
- ・1997年度は1シーズン制。リーグカップ(タイガービール・リーグカップ)も始まる。
- ・1998年、代表チームがタイガーカップで優勝(メジャートーナメント初優勝)するという快挙があったが、その一方、財政難でいくつかのクラブが存亡の危機に
- ・1999年、外国籍選手枠を、3人から5人に拡大(現在は4人)。 同年、サッカーくじが合法化。Sリーグとフットボールの発展に資金面で貢献
- ・2001年、12チームの3回戦制へ
- ・2003年、初の海外クラブ、中国のShinchi FCと、ヤングライオンズが参戦
- ・2004年、AFCカップで、ホームユナイテッドとゲイランユナイテッドがいずれもベスト4に進出(シンガポールのクラブ初)。アルビレックス新潟が参戦!
- ・2006年、11チームの3回戦制。3月~11月末。U-23代表のヤングライオンズと、アルビS、スポルティング・アフリカ以外はすべて地元のクラブ。

2) 現状ーその意欲的な取り組み

サッカーくじがあるので観客は熱狂的。しかし多くの人々の関心はヨーロッパサッカーに向けられており、TV放送のある日曜日にはSリーグの試合は行なわれない。それでもSリーグでは、次に挙げるような意欲的な取り組みを通してレベルアップを図っている。

- ■海外チームの受け入れ … Shinchi FC (2003~05 中国)、アルビレックス新潟S (2004~日本)、 スポルティング・アフリカ (2006~アフリカ)
- ■代表強化の場としての明確な位置づけ … ヤングライオンズ (U-23 シンガポール代表) の参加
- ■ユース育成 … 各クラブは年代別のチーム (U-23, U-18, U-16) を持ち、年代別にリーグ戦を行う
- ■年代別代表チームの強化 … 各年代別リーグには一つ下の年代のシンガポール代表が入っている

3. FAS(Football Association of Singapore)の意欲的な取り組み

シンガポールサッカー協会は、2010年ワールドカップ出場を目標とした"GOAL2010"と称する強化

活動を掲げていたが、その目標はひとまず取り下げ、"Step by Step"として、強化と普及の両面にわたってさまざまな取り組みを行なっている。以下にいくつか紹介する。

シンガポールサッカー協会 HP<http://www.fas.org.sg/default.asp?V_DOC_ID=853>

■ National Football Academy (NFA)

2000 年 8 月 13 日より開始。U-14~U-18 のタレントを集めた "エリート教育"制度。Jalan Besar Stadium で生活し、フットボールだけでなく学習面でのサポートを受け、年齢別のリーグや海外のトーナメントに参加する。教育省=MOE(Ministry of Education)や地域開発省=MCDS(Ministry of Community Development and Sports)、スポーツカウンシル、スポーツスクールとも連携している。

■Foreign Sports Talent (FST) Scheme

外国籍を持つ優秀な選手について、積極的に帰化を勧めるプログラム。Youth Development Program を補完するものとして 2000 年に開始。最初の FSTs は 2002 年 1 月に導入。これまで 8 人の選手に適用され、シンガポール代表として活躍している。

■ミニフットボール

2002年よりはじまった、7~12歳対象のSunday Mini Football programme

■コミュニティ・プログラム

2004年よりはじまったコミュニティづくりのためのプログラム

4. アルビレックス新潟・シンガポール(アルビS)の試み-ビデオ上映

アルビSは、初年度はアルビレックス新潟のサテライトチームであった。その後、アルビレックス新潟とは別法人として再編、3年目の今年は、FC東京やコンサドーレ札幌からの移籍選手もおり、日本で出番が少なくなった選手の受け皿にもなっている。プロ選手に混じって、ジャパンサッカーカレッジの学生も混じっている。彼らにとっては授業の一環となっている。

今年度の選手 24 名は、全員ジュロン・イーストの HDB で暮らしている。食事は HDB 内のホーカーセンター (屋台の集まったところ) にある「アルビ食堂」で、日本食を腹一杯食べることができる。ホームグラウンドは HDB 団地の中。ホームスタジアムは練習会場でもある。

S リーグは現在、SAFFC(シンガポール陸軍クラブ)が首位で、アルビ S は中位から上位をねらえる 位置にいる。リーグのレベルは、J2 の下位から JFL の上位ぐらいか。

S リーグ各チームのプレーは非常に荒い。とんでもないファールがゲームを分断する。選手はこうしたアウェーの洗礼を受けながらたくましく生きることが求められる。現実をしっかり受け止められる選手にとって、ここでの経験は非常に大きな財産になる。S リーグの経験を生かしてもう一度日本サッカーに戻る者もいれば、S リーグの他のクラブに移籍する者もいる。

しかし中には、こうした環境に甘えてしまっている者もいる。もっとできるのに、もったいない。 恵まれた環境でサッカーができる喜びを、彼らはどのように受け止めているのだろうか。

コーチ陣は、選手の意識改革を強く求めていた。せっかくの異国の地である。英語の勉強をするの も良し、シンガポールの社会や文化について学ぶも良し。時間はある。もちろん、彼らの本業のサッカーで力を出してもらうことが前提だが。

(以上、現地でスタッフと話をしたり選手の様子を見ている中での報告者の感想)

5. ジョホールバルの(JB) 視察

7月23日(日)早朝から、マレー鉄道で国境を越え、マレーシアのJBへ行ってきた。JB駅から徒歩でしばらく市内観光した後、タクシーを拾い、スタジアムへ向かう。日本で言うと駒沢陸上競技場のような老朽化したスタジアムだが、隣接してボクシングジムがあり、フットサルコートがある。隣の体育館にはバドミントンコートが20面ほどあるだろうか。その隣にもバスケットボール用の体育館がある。ここは地域のスポーツコンプレックス(複合施設)となっているようだ。

バドミントンクラブのコーチに話を聞くことができた。練習していたのは JB の選抜選手たち。平日は月・金以外はすべて、あとは週末に活動しているとのこと。マレーシアでは学校が午前の部と午後の部があるので、午前学校の時は午後から、午後学校の時は午前からやっているとのこと。語ってくれたバドミントンのコーチは、レアルマドリードのユニフォームを着ていた。

ラーキンスタジアムには、1997 年 11 月のゲームを経験したというグランド管理人のおじさんがいた。「あのときはすごかったよ。あの一角だけがイラン人で、それ以外は全部日本人だったなあ」というおじさん。タクシーの運転手も「あの日」のことを語ってくれた。特別な日であったらしい。選手入場通路には、「あの日」の写真が数点、飾られていた。スタジアムにとっても記念日なのだろう。

タクシーは値段を交渉してから乗車する。ちゃんとメーターがついているシンガポールのタクシーとは大違い。街を歩いていると、「時計はいらんか」というおじさんが必ず寄ってくる。シンガポールではなかった。いずれも異国ではあるが、JB はシンガポールとは異なる国なのだと感じた。と同時に、駅前のデパートに「シンガポール・ビジターセンター」があり、シンガポーリアンが海を越えて毎週末大勢買い物に来るように、マレーシアとシンガポールの関係の深さも感じられた。

Ⅳ. ディスカッション (主な議論のテーマとそこで交わされた意見をまとめて示す)

- ■シンガポールのゴミ・治安について
 - 報道されているように、街は非常にきれい。罰金が科せられる。路地裏もきれいなのには感心した。 ジョホールバルはもう少し雑然とした感じ。
- ■アルビSがSリーグに入るようになったきっかけと現状 シンガポールサッカー協会から日本サッカー協会に、「Sリーグにチームを派遣してほしい」との打 診があり、アルビレックス新潟が手を挙げたのが始まりだったようだ。

アルビレックス新潟にしてみれば、日本海側で練習試合の相手を見つけにくい状況の中、サテライトのレベルをどうやって維持していくかは課題の一つであった(例えば首都圏なら、Jリーグのサテライトや JFL、大学生など練習試合の相手はたくさんいるが、新潟になるとなかなか見つからない)。そのようなニーズと合致して、Sリーグに参加することになったと聞いている。

■エスニックグループ毎のクラブはないのか

伝統的なエスニックグループのコミュニティは、HDB に人口の 85%が住む今日、ほとんど解体していると言える。新しい国家、シンガポール建設のために、民族間の対立をあおるようなことはしないのだろう。正確には不明だが、エスニックグループごとのクラブの話は聞いていない。

ただ、人口比の割にはサッカー選手に華人が少なく、インド系、マレー系が多いということはある。

■」リーグの今後-もっとアジアに目を向けよ

外国人枠があるが、例えばアジア人は外国人扱いをしないなど、もっとアジアに対して開かれたリーグにしていくのも大事ではないか。アジアのサッカーにいかに貢献するかという視点はあるようだが、国境を越えた広範囲のリーグを作ることも必要かもしれない。とは言うものの、「大東亜リーグ」などと言うと、必ず「大東亜共和圏」とダブらせて危惧の念を抱く人たちが出てくる。

■アジアの中心としての自覚-海外を向くシンガポールの青少年の意識

シンガポールは、地理的にもアジアの中心になりうる(一時期「香港かシンガポールか」と言われていた)。国が小さいこともあるが、彼等の意識は国内やアジア内には向いておらず、イギリスやアメリカといった海外に向いている。

このような意識を持ったシンガポールの人材に、日本人は果たして太刀打ちできるのか。日本だけが国内を向いている(東大合格率などで一喜一憂している)状況は、何とかしないといけない。



ジュロン・イースト・スタジアムのメインスタンド。サッカー専用スタジアムで、HDB のど真ん中にある。芝はよく管理されている。



HDB のど真ん中にあるホームスタジアム(ジュロンイースト・スタジアム)で、前日の調整練習をするアルビSの選手。



HDBのホーカーセンターにある「アルビ食堂」。 選手はここで日本食を堪能する。



アルビSvs ゴンバックユナイテッド。19:30 キックオフ。観客は1000人ぐらい(?)。



アルビSのチャンス!だが決まらない。 試合は 2-2 の引き分け



一緒に観戦したインドのゴータマさん、サウジのサードさんらと。ユニフォーム姿の少年は、アルビSのサッカースクール生で、この日のボールボーイ。



マレー鉄道ジョホールバル駅。入国手続きを含め、シンガポール駅から約1時間の小さな旅。



駅には「お祈り部屋」がある。1日5回のお祈りを欠かさないイスラム教徒のための部屋。



ジョホールバル駅前のデパートにある「シンガポール・ビジターセンター」。週末には多くのシンガポーリアンが買い物にやって来るという。



ラーキンスタジアムのメインスタンド。老朽化 したスタジアムで、駒沢陸上競技場のような感 じ。



岡野のシュートはこのゴールに決まった。ここは日本のワールドカップ初出場が決まった"聖地"。



「あの日」のことを語ってくれた管理人のおじ さん。



ピッチに至る通路の壁には、日本 vs イランの写 真が飾られている。 スタジアムにとっても貴重 な、記念すべきできごとだったのだろう。

以上